科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実施状況報告書(研究実施状況報告書)(平成28年度)

大妻女子大学 1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名

挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 3. 研究種目名 平成28年度~平成29年度

5. 課題番号 1 6 K 1 3 4 2 3

ポスト3・11と原発事故被災者の「難民」化の実相 6. 研究課題名

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 2 4 0 3 4 5	ヨシハラ ナオキ 吉原 直樹	社会情報学部	教授

8. 研究分担者

	石	F 3	究	者	番	号		研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
6	0	4	5	5	1	1	0	マッモト ミチマサ 松本 行真	東北大学・災害科学国際研究所	准教授
8	0	1	3	3	9	1	6	コンノ ヒロアキ 今野 裕昭	専修大学・人間科学部	教授

9. 研究実績の概要

現時点で明らかになったことは、概ね以下の点である。

現時点で明らかになったことは、概ね以下の点である。
1 . 相双地区の多くの自治体が帰還政策をすすめるなかで、帰還困難区域を抱える自治体とそうでない自治体との間で、さらに帰還する者としない者の間で分裂 / 断絶が深まっている。
2 . 上記の分裂 / 断絶は主に年齢、世代、家族構成、学歴、子どもの教育、そして稼得状況をめぐってみられる。
3 . 政府主導の復興政策が総じて経済復興(=「大文字の復興」)に重点が置かれ、被災者の生活の復旧・復興(=「小文字の復興」)が後回しにされる傾向にある。また被災自治体じたい、復興資金の獲得に追われており、長期的な展望の下で復興施策を打ち出すにはいたっていないようにみえる。
4 . 被災者の「難民」化は、地域によってバリエーションがあるものの、総じてすすんでいる。そして帰還困難区域の被災者たちは、「棄民」化されつつある。とはいえ、帰還政策についてはなお不確定要素が多々あり(たとえば、中間貯蔵施設の立地をめぐって)、明確な展望を描き切れていないというのが実情である。したがって、以上の4点に関連して課題と論点をより明晰にするために、あらたな調査と補充調査をおこなう必要がある。とりわけ内閣府等の政府関連部局や福島県、さらに福島民報社等の地元メディアにたいして資料サーヴェイおよびヒヤリングを実施し、上記の点について検証することが避けられなくなっている。またこれらの点について、シンボジウムやセミナーを開催して広く社会に発信するとともに、意見を聴取するなどしてfindingsの精緻化をはかる必要がある。しかしそれにしても、上記の4点については、基本的に妥当するものと想到される。

10. キーワード			
₍₁₎ ポスト3・1 1	(2) 原発事故被災者	(3) 「難民」化	₍₄₎ 被災者コミュニティ
(5) 帰還政策	(6)	(7)	(8)
11. 現在までの進捗状況			
(区分)(2)おおむね順調	 に進展している。		
(理由) 今年度は、交付申請書に記し ヤリングを実施した。また研究 集約中であり、その成果の一部 割程度にとどまっている。	したように、大熊町を中心に相双 3分担者との打ち合わせ会議等を Bはすでに公表している(「13)	地区市町村、福島県立図書館、 専らメール審議という形で数回 研究発表」を参照のこと)。た	福島民報社等に対して資料収集およびヒ実施した。さらに、それらで得た知見を だし、全体としてみれば、当初計画の8
12. 今後の研究の推進方策 (等		
(今後の推進方策) 平成28年度の調査で得た成界在、進行中)。なお、29年度にとともに、生活復興の可能性と	₹を早期に集約し、29年度の調査 は、被災者個々に対するヒヤリン と課題をさぐる。またヒヤリング	研究のスケヂューリングと最終(グを中心におこない、「難民」(で得られた知見を社会に向けて)	制約に向けての課題の抽出に努める(現 との実相を個々のレベルから追い上げる 責極的に開示していきたいと考えている
(次年度使用額が生じた理6	出と使用計画)		
(理由) インフォーマント(被災者) ングに要する費用が使いきれた) とのスケヂューリングが双方の なかった。	都合で当初通りすすまなかった。	ことによって、当初予定していたヒヤリ
(使用計画) スケヂューリングの再調整を	をおこない、ヒヤリングの実施の	ための費用に充てたい。	

(課題番号: 16K13423)

13.研究発表(平成28年度の研究成果)

[雑誌論文] 計(0)件/うち査読付論文 計(0)作	件/うち国際	禁共著 計(0				0)件	
著 者 名			論	文 標	題		
雑 誌 名		査読の有無	巻	発行年	是紅]と最後の	頁 国際共著
		且此の行無		元门午	月又 17	し取扱の	只 国际六有
女会推出		<u> </u> タルオブジェク	7 L 鉾민구 \	1:::			
均戰跚又	ל ל) וטענטי	ラルオフシェ ウ	/ 1° 碱加丁 /				
	+	プンアクセス					
	カーノ	ンアクビス					
[学会発表] 計(0)件/うち招待講演 計(0)件	/ うち国際学	会 計(0)作	牛				
発 表 者 名				表 標	題		
N/ 4 77 4		× ± = = =	1	714			
学 会 等 名	3	発表年月日 発表場所					
〔図書〕 計(1)件				11-0			
著 者 名				出版	社		
吉村直樹・似田貝香門・松本行真編		六花出版					
書名				発行	7年	松へ	ージ数
東日本大震災と 復興 の生活記録				元1		AVE	· / x^
NATTO NEXT OF THE BEST OF THE					! !		
				2 0	1 6		774
14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況							
〔出願〕 計(0)件			T				
産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の)種類、番号	出願年	羊月日	国内・外国の別
						Ţ	
		1					
		1					
		1					
		<u> </u>					

〔取得〕 計(0)件

1 21137					
産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	
					ľ
					1

15.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計(0)件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16	木瓜空に関連し	て宝施し	た国際共同研究	の事体生活
TЮ.	4411111111111111111111111111111111111	ノし 美加し	化油涂头间饼为	刀夹 加水沉.

(1)国際共同研究:-

/# +		
17.備考		